

五輪・女王在位60年 集まる注目

ロンドン五輪やエリザベス女王在位60年を祝う年を迎えてイギリスへの関心が高まる中、英国発ファッションも注目されている。質実剛健、伝統と革新の融合といった印象の強い英国ブランド。その記念商品や新作から魅力を探ってみた。

創業1897年、英国王室御用達の旅行カバンで知られるグロープ・トロッターは、ここ数年の人気で受注に生産が追い付かず、納入は半年待ちの状態が続く。バルカン・ファイバーという堅牢で軽い独特の素材使いや、熟練の職人の手による工程など素朴な美直さが受けているらしい。近年はエルメスなど有名ブランドとのコラボ商品で革新性もアピールしている。

この6、7月には数量限定で、女王の在位60年を祝した「ダイヤモンド・ジュビリー」と、「オリンピック記念モデル」写真1を発売する。後者は取っ手を留める革や裏地に英国国旗ユニオンジャックをイメージした赤、白、紺を配している。

五輪の記念商品は、19世紀後半に創業し、華麗なプリント地で有名なりバティにも。日本では、聖火などをモチーフにした柄の生地2やスカーフを発売する。また、英国出身の人気デザイナー、ポール・スミスは、オリンピックの公式記念切手をデザイン。テニスや水泳など7競技を描き、切手を収めた本3も作った。ロンドンの3代の女性2人が手掛けるアクセサリーブランド、タティ・デヴァインでは、女王のお祝いを記念して、王冠や勲章を取り入れたプラスチックのネックレスや指輪など4を製作。パンクカルチャーを生んだ英国らしい皮肉やウィットに富んでいる。

「最高級の普通さ」いつも新鮮

4年に生まれたニットブランド、ジョン・スメドレーは落ち着いた色合いの無地のポロシャツなどが定番だが、今年にはスポーティーなウエアに力を入れる。競技場のラインから発想したジッパーがポイントのパーカー5や、袖なしの優雅なポロシャツなどだ。国旗柄などを集めて記念年を盛り上げる雑貨店もある。東京・青山の輸入雑貨店「サ・テイストメイカース・アンド・コー」は来月、女王が愛用するフルトンのビニール傘や、デッキチェアの布地メーカーのテント6など、ユニオンジャック柄の商品をそろえたフェアを開く。

一方、あえて五輪などのチームに乗らないのが紳士の国の流儀、とする老舗ブランドも少なくない。1856年に創業し、王室御用達証を受けているバーバリー。最近の人気は、英国の伝統にちなんで馬具用の革を使った「プライドル」シリーズのバッグ7。トレンチコート

の裏地に使うバーバリー・チェック柄を組み合わせた。デザイナーのクリストファー・ベイリーのもと、歴史と新しさを併せ持つブランドを目指す。公式サイトではファン向けに、トレンチコート

の裏地に使うバーバリー・チェック柄を組み合わせた。デザイナーのクリストファー・ベイリーのもと、歴史と新しさを併せ持つブランドを目指す。公式サイトではファン向けに、トレンチコート

を着た写真の投稿コーナーも設けている。

新興では、ブラジル出身のダニエラ・イッサ・ヘラエルが01年に設立したイッサ・ロンドン。キャサリン妃がウイリアム王子との婚約発表会見で着用し、「幸せを呼ぶドレス」として日本でも話題になった。伸縮素材を使った鮮やかな柄のワンピースが定番で、V字に開いた胸元が女性らしさを醸し出す8。大原広和氏撮影。3月に東京の銀座三越に世界初の直営店を開店し、今月27日まで結婚式向

けのフェアを開催中だ。こうした英国ブランドの魅力について英国専門商社BLBGの田窪寿保社長は「最高級の普通さ。地味だが、使い込んで初めてスタイルが出るところ」と話す。たとえば、文具のスマイソンのノートは元のポンド紙幣と同じ紙を使っているなど「語るべきウンチクが満載なこともオタク心を誘う」という。

また、英国の伝統文化に詳しい中野香織・明治大学特任教授は「トレンチで変わらないうから逆にいつも新鮮。古い伝統と最先端を上手に組み合わせ、時に王室の影響力も利用して世界の注目を集められるのは英国だけ。老練なたたかさも感じます」と評した。(編集委員・高橋牧子 安部美香子)



1



3



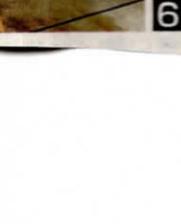
4



5



6



7



8



9



10

